デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業　令和 4 年度選定事業

人文社会科学分野における DX 推進エキスパート人材育成のための大学院新学位プログラム

～教育データサイエンスプログラムとソーシャルデータサイエンスプログラムの設置～

外部評価結果報告書

2026 年 11 月

広島大学大学院人間社会科学研究科

目　　次

Ⅰ. はじめに …… 4

Ⅱ. 外部評価委員会委員一覧 …… 5

Ⅲ. 外部評価実施概要 …… 6
1. 概要 …… 6
2. 評価項目 …… 7
3. 評価レベル …… 7
4. 配付資料 …… 8
5. 学生との面談の概要 …… 8
6. 意見交換の概要 …… 11

Ⅳ. 外部評価項目別評価結果 …… 14
【①学務関連】 …… 14
（1）教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの基本理念，輩出する人材像は，社会の要請を反映したものになっていますか。 …… 14
（2）教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムのカリキュラムは，必要な内容を含み，体系的な編成となっていますか。 …… 15
（3）学務関連活動を企画・運営する上で，学内の関連部局と連携し，必要な運営体制が適切に整備され，機能していますか。 …… 16
（4）教育リソース（ICT 環境，統計データ利活用等）は適切に整備されていますか。 …… 17
【②学生の受入れ】 …… 18
（5）学生の受入れについて，入学者受入方針に沿った，適切な体制により受入れが行われていますか。 …… 18
（6）入学定員や入学実績は適切ですか。 …… 19
【③学生生活・進路関連】 …… 20
（7）学生入学後の初期指導・オリエンテーションは充実していますか。 …… 20
（8）学生のニーズに応え得る学習・研究相談，キャリア相談の体制を整備し，助言，支援が行われていますか。 …… 21
【④DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業】 …… 22
（9）DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業の実施計画・継続性は，十分なものになっていますか。 …… 22
（10）DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業選定時において付された留意事項への対応は，適切に行われていますか。 …… 23
【⑤その他】 …… 24
（11）他教育機関・企業・自治体等との連携は活用されていますか。 …… 24
（12）情報発信（広報，ウェブサイト，シンポジウム，セミナー等）は十分に行われていますか。 …… 25
【総合】 …… 26

（13）教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの活動状況について，総合的にどのように評価できますか。…… 26
（14）その他，お気づきの点がございましたら，自由にご入力ください（これからの教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムに求めること，等）。…… 27

Ⅴ．評価結果を踏まえた今後の改善策…… 28
1. 平均評価点一覧 …… 28
2. 今後の改善策…… 30
（1）全体的分析 …… 30
（2）項目別分析 …… 30

Ⅰ はじめに

広島大学大学院人間社会科学研究科は，人間と社会のための諸科学を追究すること，また，教育による持続可能で平和な世界の構築を目指すことという二つのミッションを有し，人間や社会に関する深い見識と専門分野以外への強い関心を持ち，自然科学や生命科学を含む他分野の専門家と協働して将来の人類社会を創造する人材を育成することを目的として設置された。

その後，文部科学省「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業」に採択されたことを受け，教育学や経済学・経営学の専門性と数理・データサイエンス・AI の素養を併せ持つ高度専門人材を育成することを目的として，教育データサイエンスプログラム及びソーシャルデータサイエンスプログラムを博士課程前期に設置した。両プログラムでは，AI・データイノベーション教育研究センターや大学院先進理工系科学研究科等との連携の下，人文社会科学分野とデータサイエンス分野の教員が協働して研究指導を行うとともに，異なる専門分野の学生が共修しながら社会課題の解決に取り組む教育を展開している。

両プログラムは開設 2 年目を迎え，本年度は博士課程前期の入学定員を充足するとともに，人材像や履修モデルの明確化，学内外との連携体制の強化，情報発信の充実など，中間評価や昨年度外部評価で示された課題への対応を着実に進めてきた。また，来年度には博士課程後期の開設を予定しており，博士課程前期・後期を通じた体系的な教育研究体制の構築を進めている。

このたび，本学の連携大学・連携機関であり，高等教育，データサイエンス，産学官連携等に精通した学外有識者 7 名に外部評価を依頼した。その結果，評価対象 13 項目の全てにおいて平均評価点 4.0 以上の評価を得ることができた。また，博士課程後期開設を契機とした研究拠点形成への期待，産学官連携や PBL（課題解決型学習）・インターンシップの充実，教育研究成果の可視化と社会還元，さらには学生支援体制の一層の充実など，今後の発展に向けた貴重なご意見・ご助言を頂戴した。

本報告書は，これらの評価結果及びご意見・ご助言を取りまとめたものである。今後，本研究科では，本評価結果を重要な発展の節目として受け止め，教育・研究のさらなる質向上を図るとともに，教育 DX，地域 DX 及び社会課題の解決に貢献する高度専門人材の育成と研究成果の社会実装を推進し，本学が目指す「総合知」の創出と社会還元に取り組んでいく。

Ⅱ　外部評価委員会委員一覧

【学外委員】　（敬称略）

所属機関名・役職名	氏　名
中国電力株式会社エネルギア総合研究所　担当部長（技術開発統括）	三　浦　良　平
一般社団法人中国経済連合会　常務理事・事務局長	鹿　嶋　慎一郎
比治山大学・比治山大学短期大学部　学長	宮　谷　真　人
広島文化学園大学・短期大学　学長	坂　越　正　樹
東広島市教育委員会　教育参与	榊　原　恒　雄
東広島市教育委員会　生涯学習部長	福　光　直　美
広島県教育委員会学校経営課　総括指導主事	豊　田　由　之

【学内委員】

役職名	氏　名
広島大学大学院人間社会科学研究科　研究科長	松　見　法　男
広島大学大学院人間社会科学研究科　副研究科長	鈴　木　喜　久
広島大学大学院人間社会科学研究科　教授	田　中　秀　幸
広島大学大学院人間社会科学研究科　教授	松　原　主　典
広島大学大学院人間社会科学研究科　教授	杉　尾　健次郎
広島大学大学院人間社会科学研究科　准教授	湧　田　雄　基

Ⅲ 外部評価実施概要

2026 年 8 月 5 日（水），本研究科において，外部評価委員会の学内委員の説明に基づき，学外委員に対してヒアリングを行った。

また，今年度は，学外委員と代表学生との面談を行い，現在の教育・研究の進捗状況や進路等に関する質疑応答を行った。

学外委員からは，現状に対する忌憚のない意見や助言をいただき，活発な意見交換が行われた。

なお，都合により当日欠席となった学外委員 2 名に対しては，個別にヒアリングを行った。

1. 概要

(1) 日時：2026 年 8 月 5 日（水）14：00～16：00

(2) 会場：広島大学　東広島キャンパス　教育学部管理棟 2 階　第 3・4 会議室

(3) タイムテーブル：

時刻	内容	担当者
14:00～14:20	開会挨拶及び全体概要説明	人間社会科学研究科長 松見　法男
14:20～14:30	教育データサイエンスプログラムの取組	教育データサイエンスプログラム長 田中　秀幸
14:30～14:40	ソーシャルデータサイエンスプログラムの取組	ソーシャルデータサイエンスプログラム長 鈴木　喜久 同プログラム准教授 湧田　雄基
14:40～14:45	準備	
14:45～15:10	教育データサイエンスプログラム及びソーシャルデータサイエンスプログラムの学生との面談	教育データサイエンスプログラム代表学生 （博士課程前期 2 年次生） 大橋　佳子 松見　学志 加藤　宗一郎 （博士課程前期 1 年次生） 水野　崇 田中　亮太郎 佐久間　隆（オンライン） ソーシャルデータサイエンスプログラム代表学生 （博士課程前期 2 年次生） 大西　佑菜 （インタビュー動画） （博士課程前期 1 年次生） 木下　雄基（オンライン）
15:10～15:25	休憩	
15:25～16:00	質疑応答・意見交換	
16:00	閉会挨拶	人間社会科学研究科長 松見　法男

2. 評価項目

【　①学務関連　】	
(1)	教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの基本理念，輩出する人材像は，社会の要請を反映したものになっていますか。
(2)	教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムのカリキュラムは，必要な内容を含み，体系的な編成となっていますか。
(3)	学務関連活動を企画・運営する上で，学内の関連部局と連携し，必要な運営体制が適切に整備され，機能していますか。
(4)	教育リソース（ICT 環境，統計データ利活用等）は適切に整備されていますか。
【　②学生の受入れ　】	
(5)	学生の受入れについて，入学者受入方針に沿った，適切な体制により受入れが行われていますか。
(6)	入学定員や入学実績は適切ですか。
【　③学生生活・進路関連　】	
(7)	学生入学後の初期指導・オリエンテーションは充実していますか。
(8)	学生のニーズに応え得る学習・研究相談，キャリア相談の体制を整備し，助言，支援が行われていますか。
【　④DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業　】	
(9)	DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業の実施計画・継続性は，十分なものになっていますか。
(10)	DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業選定時において付された留意事項への対応は，適切に行われていますか。
【　⑤その他　】	
(11)	他教育機関・企業・自治体等との連携は活用されていますか。
(12)	情報発信（広報，ウェブサイト，シンポジウム，セミナー等）は十分に行われていますか。
【　総　合　】	
(13)	教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの活動状況について，総合的にどのように評価できますか。
(14)	その他，お気づきの点がございましたら，自由にご入力ください（これからの教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムに求めること，等）。

3. 評価レベル

5 段階評価：5 特に優れている　4 やや優れている　3 普通　2 やや劣っている　1 劣っている

4. 配付資料

(1) 外部評価委員会　次第
(2) 外部評価委員会　委員名簿
(3) 外部評価委員会　配席図（教育学部管理棟第 3・4 会議室）
(4) 大学院人間社会科学研究科の名称変更及び学位プログラムの新設等
(5) 「人間社会科学研究科 教育・ソーシャルデータサイエンスプログラム評価表」ご入力のお願い
(6) デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業　令和 4 年度選定事業　中間評価結果について
(7) 外部評価委員会概要・実施状況
(8) 広島大学大学院人間社会科学研究科教育科学専攻教育データサイエンスプログラム資料
(9) 広島大学大学院人間社会科学研究科人文社会科学専攻ソーシャルデータサイエンスプログラム資料
(10) 入学試験実施状況
(11) 人間社会科学研究科／教育人文社会科学研究科　履修基準
(12) 令和 7 年度開講科目　受講状況・授業改善アンケート回答状況
(13) 外部評価結果報告書 2025 年 12 月
(14) 人間社会科学研究科リーフレット

5. 学生との面談の概要

※「学外外部評価委員」欄の記号は，5 ページの外部評価委員一覧の掲載順とは一致しない。また，「学生回答」欄の記号は，6～7 ページの学生氏名の掲載順とは一致しない。

学外外部評価委員	質問	学生回答
B	博士課程前期の学びの感触から，今後の進路をどのように考えているか。	・地方公務員又はメーカー系企業への進路を検討しており，この 2 年間で修得したデータ分析力やデジタル技術の活用能力を活かしたいと考えている。(教育データサイエンスプログラム博士課程前期 2 年・a) ・ニーズ調査の結果に基づき，AI を活用した語学学習支援アプリケーションの開発に向けて取り組んでいる。今後，博士課程後期に進学して，質的調査から量的調査に移行し，社会への還元につなげたいと考えている。教育データサイエンスについて入学当初は十分に理解できていなかったが，学ぶ中で質的調査の重要性を実感しており，入学してよかったと感じている。(教育データサイエンスプログラム・博士課程前期 2 年・b) ・教育現場で得た課題意識を活かし，教育系企業で学校支援に携わりたいと考えている。(教

		育データサイエンスプログラム博士課程前期2年・c） ・生成AIの活用を反映した，情報活用能力を高めるための教育を研究テーマとし，博士課程後期への進学を目指している。（教育データサイエンスプログラム博士課程前期 1年・d） ・学習者の離脱防止や学習意欲向上に関する研究を活かし，EdTech企業への就職を志望している。（教育データサイエンスプログラム博士課程前期1年・e） ・生成AIによるウェルビーイングの向上を研究しており，DXやデータサイエンスを学ぶことで着実に学習の効果を感じている。研究成果次第では博士課程後期への進学も検討している。（教育データサイエンスプログラム博士課程前期1年・f） ・データサイエンスの基礎と社会課題解決の視点を期待以上に学べており，博士課程後期への進学や，大学教員と事務職員の中間的な職種なども視野に入れ，社会課題の解決や新たな価値創造に貢献したいと考えている。（ソーシャルデータサイエンスプログラム博士課程前期1年・h）
E	本プログラムを知ったきっかけや志望理由は何か。学部からの進学者は，学部時代は何を研究していたか。	・学部時代の指導教員から紹介を受けて入学した。学部では技術科のデジタル教材の開発をしていた。（教育データサイエンスプログラム博士課程前期2年・a） ・広島大学の事務職員として教員免許ポートフォリオシステムに関わった経験から，学習支援システムの改善に関心を持ち入学した。（教育データサイエンスプログラム博士課程前期2年・b） ・もともと教員をしており，教育現場での課題をシステム開発やそのサポートの立場で解決したいとの思いから，学部時代の指導教員の紹介で入学した。（教育データサイエンスプログラム博士課程前期2年・c） ・教育とデータサイエンスをキーワードに検索し，説明会を知った。生成AI開発等の実務経験を背景に，教育も学べる点に魅力を

		感じて志望した。(教育データサイエンスプログラム博士課程前期 1 年・d) ・学部時代の教育学・言語教育の学びを基盤に，データに基づく教育・研究を志向し，ホームページ等で情報収集した。(教育データサイエンスプログラム博士課程前期 1 年・e) ・自動車メーカーの職員として，中国への出向当時，開発業務や人間関係によるストレスを経験する中で AI を活用して物事を整理したことを契機に，この方面での多角的な学習に関心を持ち，対話型 AI も活用しながら進学先を検討し本学を選んだ。(教育データサイエンスプログラム博士課程前期 1 年・f) ・大学職員として様々なデータ活用による教学改革や内部質保証の確立に携わる中で，自分自身に学術的基盤の必要性を感じ，社会課題とデータサイエンスを融合した本プログラムに進学した。(ソーシャルデータサイエンスプログラム博士課程前期 1 年・h)
G	入学前に期待していたことと現在のカリキュラム等にギャップがあるか。また，ダブルメジャーのメリットは何か。	・システム構築の上では，使う人間側へのアプローチも重要だと考えていたが，現行のカリキュラムでは，ものづくりが重視されているため，ややギャップを感じた。また，ダブルメジャーにより幅広い知識と専門性を獲得できる点は，学校教育では重要であり，対外的な強みとして大きなメリットがあると考えている。(教育データサイエンスプログラム博士課程前期 2 年・b) ・データ分析を行う際，学校現場の実態や背景情報を十分に把握できないまま分析せざるを得ない場合があり，その点にギャップを感じている。これは本学に限らず全国的な課題であると考えている。(教育データサイエンスプログラム博士課程前期 2 年・c) ・大学院では少人数教育となるため，即時の質疑応答や学生間の議論等，インタラクティブな授業を期待していたが，AI を活用したオンデマンド授業が多かった点にギャップを感じた。(教育データサイエンスプログラム

		博士課程前期 1 年・e） ・遠隔地在住でもオンラインやオンデマンドにより質の高い学習が可能である点は非常に感動しているが，一方，研究の進め方に関しては，指導教員とのやりとりにおいて研究計画や研究指導体制が分かりにくいと感じた。また，オリエンテーション段階から学生同士の交流を深める機会があればよいと考えている。（ソーシャルデータサイエンスプログラム博士課程前期 1 年・h）

6. 意見交換の概要

※「学外外部評価委員」欄の記号は，5 ページの外部評価委員一覧の掲載順とは一致しない。

学外外部評価委員	意見・要望等	学内外部評価委員回答
A	社会人経験を有する学生にとって有意義な学習環境となっている。一方で，学生から，双方向的な学習機会の充実や利用者視点を重視したカリキュラム編成の要望があったため，学生にとってよりよい内容となるよう期待する。	・学生満足度は重要な指標であり，博士課程後期への進学状況とあわせて継続的に把握していく。
B	高度デジタル人材や博士課程後期修了者に対する産業界の期待は大きい。地域で高度デジタル人材を育成・定着させる仕組みづくりや，地域企業と連携した PBL（課題解決型学習）の充実を期待する。	・博士課程後期学生のキャリアパス開発を重要課題としている。産業界へのアウトプットの拡充のため，博士課程後期学生対象のインターンシップやアントレプレナーシップ教育の導入を検討している。地域企業との連携を強化し，インターンシップ受入先の拡充を進める。 ・博士人材の企業での活用方法や処遇について，産業界と継続的に協議していく。 ・産学連携による PBL や共同研究の推進を図るとともに，社会人が共同研究を通じて本プログラムで学位を取得できる仕組みの充実を進める。
C	養成する人材像は固定化せず，社会や学生のニーズに応じて柔軟に見直すべきである。また，学内の他プログラムとの連携や学部	・人材像については，基本的な部分は維持するが，社会や時代の変化に応じて見直しながら最先端の人材を育成していく方針である。 ・学部生向け説明会や 5 年一貫プログラム（ソ

	の学生への周知を積極的に行い，データサイエンス分野への関心を高めることが必要である。両プログラムの連携による共通体験の充実や副指導体制の実効性の向上に期待する。	ーシャルデータサイエンスプログラム）を活用し，学部から大学院への進学促進を図っている。 ・研究科再編後に博士課程後期に開設される教職実践学プログラムとの連携の強化を進める。同プログラムの対象となる臨床的な教育実践の研究を行う現職教員にとって，学校現場での指導に必要とされるデータサイエンス系のカリキュラムの需要が高まっている。 ・AI やデータサイエンスを活用できる学内の他部局等の教員との共同授業を実施している。 ・副指導体制については，修士研究の中間報告会等を活用しながら実質的な指導体制の充実を図る。
E	中学校英語科の学力テストへの CBT 方式の導入等，教育 DX への対応が進む中，教育制度設計や教育委員会におけるデジタル活用を担う人材の育成が急務となっている。在学中にインターンシップ等で教育現場に触れていただき，教育現場での経験に基づく知識を獲得し，教育行政に携わる人材を育成していただきたい。	・教育現場における ICT や AI の活用を支援できる人材の育成を重視している。文部科学省からの期待にも沿うところである。 ・教育委員会等からの依頼を受け，ICT や AI に関する研修を支援している。 ・生成 AI 活用能力の重要性を踏まえ，時代の変化に対応した人材育成を進める。
G	広島県が策定した「教育に関する大綱」にも位置付けられている，高等学校での「総合的な探究の時間」におけるデジタル学習基盤を活用した PBL（課題解決型学習）の取組に対して，大学院生がメンターとして学校現場で指導・助言を行う仕組みづくりを期待する。また，学生の意見を踏まえたカリキュラム改善が重要である。	・大学院生が学校現場や地域社会と連携しながら学び，その成果を社会に還元できる人材育成を進める。 ・学生からの意見や満足度等を踏まえ，教育内容や指導体制の改善を継続的に行う。



Ⅳ. 外部評価項目別評価結果

学外外部評価委員 7 名からいただいた評価結果について，項目ごとにまとめたものを次に示す。

評価は 5 段階評価とし，各レベルは「5：特に優れている（5 点）」，「4：やや優れている（4 点）」，「3：普通（3 点）」，「2：やや劣っている（2 点）」，「1：劣っている（1 点）」とし，各評価レベルの件数・得点と平均評価点を示す。

なお，「評価の理由・ご意見・ご助言等」（自由記述）については，任意回答とした。

※「学外外部評価委員」欄の記号は，5 ページの外部評価委員一覧の掲載順とは一致しない。

【　①学務関連　】

(1) 教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの基本理念，輩出する人材像は，社会の要請を反映したものになっていますか。

評価	5 特に優れている （5 点）	4 やや優れている （4 点）	3 普通 （3 点）	2 やや劣っている （2 点）	1 劣っている （1 点）	合計 （35 点満点）	平均 評価点 （5 点満点）
件数	6	1	0	0	0	7	4.9
得点	30	4	0	0	0	34	

学外外部評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	明記された人材像は，未知の領域での新たな価値を創造できるイノベーション人材を養成できる可能性が十分あるものであり，現在企業が求めている人材像と合致している。
B	本プログラムは，生成 AI の深化を踏まえながら，数理・統計の基礎を踏まえつつも，より「DX プロジェクト推進力」，「社会への活動力」を主軸において進められていることを確認し，社会の要請を的確に反映していると考える。
C	中間評価への対応を経て，より具体的かつ適切なものになったと評価できる。
D	両プログラムは，DX の推進という大きな社会課題の解決を対象とし，データサイエンスや AI の活用が可能な高度専門人材の育成を目指している点で，社会的ニーズに応えるものとなっている。今年度は，両プログラムにおいて育成する人材像が整理され，より明確になった。
E	学校・教育委員会の DX，不登校等へのデータ活用，教員の業務改善など社会の要請を反映している。
F	教育分野及び社会科学分野における DX 推進人材の育成という理念は，国の政策動向や地域社会の課題と合致しており，社会的要請を的確に反映している。特に教育データサイエンスプログラムは，教育現場の課題解決や教育 DX を牽引する高度専門人材の育成を目指しており，今後の学校教育や生涯学習の充実に大きく寄与することが期待される。人材像の明確化やロールモデルの提示も進められており評価できる。

G	データサイエンスに貢献できる人材は変化していくことから，常に社会ニーズの把握が必要である。

(2) 教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムのカリキュラムは，必要な内容を含み，体系的な編成となっていますか。

評価	5 特に優れている （5 点）	4 やや優れている （4 点）	3 普通 （3 点）	2 やや劣っている （2 点）	1 劣っている （1 点）	合計 （35 点満点）	平均 評価点 （5 点満点）
件数	6	1	0	0	0	7	4.9
得点	30	4	0	0	0	34	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	プログラム専門科目では DX の基礎から実践演習まで準備されている等，幅広く学べるプログラムとなっているので，実施の講義において双方向のコミュニケーションを大切に進めていただきたい。
B	文系や社会人学生の多様な背景に応じて，明確なスキルセットと履修モデルが編成されていると評価できる。
C	学生の意見や社会情勢の変化などに対応するため，柔軟に変更・修正すると良いと思う。
D	人材像，能力，スキルセット及びカリキュラムの関係が整理され，体系性が向上している。また，文系学生にも配慮し，基礎的内容から段階的に学べる授業改善が進められている。教育効果については今後継続的な検証が必要である。
E	基礎から教育課題にデータサイエンスを活用できる人材へと，体系的である。教育 DX を実装できる人材を育てるため，自治体との連携を一層期待する。
F	教育学・社会科学とデータサイエンスを融合した体系的なカリキュラムが整備されている。特に複数指導体制や実践的な演習科目の導入は特色ある取組である。一方で，今後は教育現場や地域課題との連携をさらに強化し，生成 AI 活用やデータ利活用の最新動向を継続的に反映していくことを期待する。
G	教育学部，経済学部との連携があるだけでなく，大学としての評価指標が必要ではないか。

(3) 学務関連活動を企画・運営する上で，学内の関連部局と連携し，必要な運営体制が適切に整備され，機能していますか。

評価	5 特に優れている （5 点）	4 やや優れている （4 点）	3 普通 （3 点）	2 やや劣っている （2 点）	1 劣っている （1 点）	合計 （35 点満点）	平均 評価点 （5 点満点）
件数	5	2	0	0	0	7	4.7
得点	25	8	0	0	0	33	

学外外部評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	EDS と SDS 間の連携及び AI・データイノベーション教育研究センターとの連携も整備されている。
B	多様な学生（文系・社会人・遠隔地学生）に対する，リモート受講や AI アシスタント導入など，学習支援体制は評価できる。更なるシームレスな修士から博士課程後期へのモデル構築を期待する。
C	まずは，ソーシャルデータサイエンスプログラムと教育データサイエンスプログラムの連携，研究科の他プログラムとの相互理解・支援を望む。
D	専用ウェブサイトの整備や人材像，履修モデルの可視化など，情報発信の強化が着実に進められている。今後は，修了生の活躍や研究成果の発信を通じて，プログラムの特色がさらに広く認知されることを期待したい。
E	研究指導が，専門の異なる教員での複数指導体制で行うなど，組織的な取組が行われている。教育改善に繋がる仕組みを期待する。
F	研究科内のみならず，AI・データイノベーション教育研究センターや先進理工系分野との連携強化が進められており，分野横断的な運営体制が構築されつつある。今後も学内の知的資源を最大限活用しながら，持続可能な運営体制の確立を期待する。

(4) 教育リソース（ICT 環境，統計データ利活用等）は適切に整備されていますか。

評価	5 特に優れている （5 点）	4 やや優れている （4 点）	3 普通 （3 点）	2 やや劣っている （2 点）	1 劣っている （1 点）	合計 （35 点満点）	平均 評価点 （5 点満点）
件数	2	4	1	0	0	7	4.1
得点	10	16	3	0	0	29	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	特に，SDS においては，社会人への対応としてフルオンライン対応が可能となっている等，リソースは整備されている。
B	AI データイノベーション教育研究センターの知見や機能を授業に活用されているなどの点が評価できる。
C	教育データサイエンスプログラム所属の学生から，演習等で用いるデータについて意見があった。より現実性の高いデータ，解析の結果に現実的意味を見出しやすいデータが活用できるようになると良いと思う。
D	ICT 環境や分析環境の整備に加えて，演習支援 AI システム「TA エージェント」の開発・運用は特色ある取組であり，多様な背景を持つ学生への学習支援として有効である。ワークステーションの活用やオンライン環境の充実など，DX を支える環境整備も進んでいる。
E	東広島市との地域連携など実践的な教育リソースが整理されている。今後は，学生が実際使えるデータなどを確認することが重要である。
F	統計データ利活用センターの活用やデータ分析環境の整備に加え，サーバー環境の充実等の対応も進められている。教育・研究活動を支える基盤は概ね整備されていると評価できる。今後は AI や大規模データ解析に対応できる環境整備を継続的に進めることを期待したい。
G	学生からのヒアリングでは，設置したばかりでデータそのものが整備されていない，との意見があった。

【　②学生の受入れ　】

(5) 学生の受入れについて，入学者受入方針に沿った，適切な体制により受入れが行われていますか。

評価	5 特に優れている （5 点）	4 やや優れている （4 点）	3 普通 （3 点）	2 やや劣っている （2 点）	1 劣っている （1 点）	合計 （35 点満点）	平均 評価点 （5 点満点）
件数	5	2	0	0	0	7	4.7
得点	25	8	0	0	0	33	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
B	入試制度の柔軟化や定員割れの課題への対策を通じて，両プログラムとも定員を充足し，かつ多様な人材を受け入れていると評価できる。
C	アドミッション・ポリシーも，入試等の実施体制も適切と思う。
D	アドミッション・ポリシーに基づき，学部新卒者だけでなく社会人学生や多様な専門分野の学生を受け入れる体制が整備されている。人材像や履修モデルが明示されたことで，志願者に対して学修内容や修了後の進路を示しやすくなった点も評価できる。
E	一般・社会人・推薦等の入試において，多様な試験を組み合わせて実施している。今後は，入学後の学生の学修成果等を踏まえて，検証する必要がある。
F	社会人特別選抜やオンライン対応など，多様な学習者を受け入れる仕組みが整備されている。教育現場や自治体職員，企業人材など幅広い層を想定した受入体制となっており評価できる。今後も多様なバックグラウンドを持つ学生が学びやすい環境づくりを期待する。
G	多様なバックグラウンドをもった入学者に対応できる入試時期と回数（3 回）である。

(6) 入学定員や入学実績は適切ですか。

評価	5 特に優れている （5 点）	4 やや優れている （4 点）	3 普通 （3 点）	2 やや劣っている （2 点）	1 劣っている （1 点）	合計 （35 点満点）	平均 評価点 （5 点満点）
件数	4	2	1	0	0	7	4.4
得点	20	8	3	0	0	31	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	EDS，SDS とも博士課程前期 1 年生は定員を満たしている。
C	2 年目で入学定員を充足した点は，高く評価できる。
D	今年度は，両プログラムとも入学定員を満たしており，学生確保に関しての成果が認められる。今後も多様な背景を持つ志願者の確保に向けて，継続的な取組が望まれる。
E	適切である。
F	新設プログラムであり一定の成果は見られるものの，現時点では定員充足の面で課題が残っている。今後は修了後のキャリアパスや学習成果をより具体的に発信するとともに，地元教育委員会や自治体，企業等への積極的な広報を通じて認知度向上を図ることを期待する。
G	ソーシャルデータサイエンスプログラムでは，学部生からの入学者が少ないように感じた。

【　③学生生活・進路関連　】

(7) 学生入学後の初期指導・オリエンテーションは充実していますか。

評価	5 特に優れている （5 点）	4 やや優れている （4 点）	3 普通 （3 点）	2 やや劣っている （2 点）	1 劣っている （1 点）	合計 （35 点満点）	平均 評価点 （5 点満点）
件数	2	4	1	0	0	7	4.1
得点	10	16	3	0	0	29	

学外外部評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
B	AI アシスタントの導入や数学スキルのフォローなど，文系や遠隔地社会人等へのフォローを評価する。
C	学生から，指導教員が誰かわからないという発言があったことが気になった。全体的体制の問題なのか，その学生の問題なのか，検討をお願いしたい。
D	履修支援，学修支援体制ともに整備されている。文系学生にも配慮した授業改善が進められており，円滑な学修開始を支援する取組みとして評価できる。
E	仕組みは整備されていると思う。機会を捉えて，学生の生の声を参考にすることも必要である。
F	履修モデルの提示や人材像の明確化等により，学生が自身の将来像を描きやすい環境づくりが進められている。特に社会人学生や異分野出身学生に対する丁寧な支援を継続していただきたい。
G	学生からのヒアリングでは，オンライン受講者から，詳細な研究指導方針・体制のオリエンテーションの充実を求める声があった。

(8) 学生のニーズに応え得る学習・研究相談，キャリア相談の体制を整備し，助言，支援が行われていますか。

評価	5 特に優れている （5 点）	4 やや優れている （4 点）	3 普通 （3 点）	2 やや劣っている （2 点）	1 劣っている （1 点）	合計 （35 点満点）	平均 評価点 （5 点満点）
件数	4	3	0	0	0	7	4.6
得点	20	12	0	0	0	32	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
B	地域企業と直接つながるキャリア支援の充実を期待している。
C	現状は十分な体制と思うが，学生数の増加や多様性の拡大に対応できているかどうか，常にモニターをお願いしたい。
D	教員による指導体制に加え，AI を活用した学習支援や多様なロールモデルの提示など，学生が主体的に学修やキャリア形成を考える環境が整備されている。
E	複数分野の研究指導体制など，相談体制が整っている。社会人等多様な学生の中，今後ともニーズの把握に努めていただきたい。
F	複数指導教員による研究指導体制や，各分野との連携による支援体制が整備されている点は高く評価できる。今後は修了後の進路形成や博士課程後期への進学支援など，キャリア形成支援のさらなる充実を期待する。
G	学生のニーズの中には，少人数での大学院教育に期待される，メールやチャットよりも密度の濃いインタラクティブな指導・支援の場の設定もあると思われるので，各学生のニーズの把握も必要である。

【　④DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業　】

⑼ DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業の実施計画・継続性は，十分なものになっていますか。

評価	5 特に優れている （5 点）	4 やや優れている （4 点）	3 普通 （3 点）	2 やや劣っている （2 点）	1 劣っている （1 点）	合計 （35 点満点）	平均 評価点 （5 点満点）
件数	4	3	0	0	0	7	4.6
得点	20	12	0	0	0	32	

学外外部評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	中間評価や外部評価委員会での結果に対して十分検討され対策が各々されており継続性を担保していると考える。
C	来年度以降，博士課程が開設されてからの事業内容やその実現可能性について判断しづらい点があった。
D	博士課程前期から後期までを見通した教育設計や学際連携体制の整備，産学連携ネットワークの構築など，事業終了後を見据えた取組みが進められている。一方で，これらの取組みを持続的に発展させるための運営基盤については，さらに明確化されることを期待したい。
E	令和 9 年度からの博士課程後期を考え，継続的な研究体制となっている。本事業終了後，指導者や財政面等，長期的な計画の検討が必要である。
F	文部科学省の中間評価で指摘された事項への対応が着実に進められており，事業継続に向けた改善努力が認められる。今後は補助事業終了後を見据えた自走化や外部資金の確保に向けた取組をさらに推進していただきたい。
G	学内委員からは，実施計画の改善や継続性への具体的な報告があった。

(10) DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業選定時において付された留意事項への対応は，適切に行われていますか。

評価	5 特に優れている （5 点）	4 やや優れている （4 点）	3 普通 （3 点）	2 やや劣っている （2 点）	1 劣っている （1 点）	合計 （35 点満点）	平均 評価点 （5 点満点）
件数	6	1	0	0	0	7	4.9
得点	30	4	0	0	0	34	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
B	人物像の明確化の周知，AI センター等学内組織との連携を具体化した取組は評価できる。
C	中間評価に対する対応も含め，適切だと思う。
D	人材像が能力，スキルセット，履修モデル，ロールモデルと関連付けて体系的に整理されており，育成目標と教育内容との対応関係が明確になった。今後は，修了生の活躍を通じた検証にも注目したい。
F	人材像の明確化，学内連携の強化，博士課程設置準備など，中間評価で示された課題に対して真摯な改善が行われていることを確認した。今後も継続的な自己点検と改善サイクルを通じて，プログラムの質向上を期待する。
G	研究科長のリーダーシップや，補助期間終了後の体制も示されている。

【　⑤その他　】

(11) 他教育機関・企業・自治体等との連携は活用されていますか。

評価	5 特に優れている （5 点）	4 やや優れている （4 点）	3 普通 （3 点）	2 やや劣っている （2 点）	1 劣っている （1 点）	合計 （35 点満点）	平均 評価点 （5 点満点）
件数	2	4	1	0	0	7	4.1
得点	10	16	3	0	0	29	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	企業・自治体等へのインターンシップの計画もされており，修了する学生へのキャリア支援をさらに充実していただきたい。
B	企業等への成果発表や共同研究などを推進し，より学外のリアルな課題解決に直結する仕組みづくりに期待している。
C	相手のあることであり，困難を伴うことであると想像できるが，より広範囲な連携等が実現すると良いと思う。
D	自治体や企業との連携に加え，教育現場，地域社会，産業界を結び付ける教育研究活動が進められている。今後は共同研究や実践的インターンシップなど，さらなる発展に期待したい。
E	外部評価委員会を設置し，教育委員会・企業・自治体等の関係者から意見を聞く機会を設けている。
F	東広島市教育委員会をはじめ，企業，経済団体，教育機関等との連携が積極的に進められている。実社会の課題を教育研究に取り込む仕組みとして高く評価できる。今後は共同研究や PBL（課題解決型学習）などをさらに発展させ，地域課題解決や地域 DX の推進につながる成果を期待したい。
G	素晴らしい教育内容を，もっと企業や教育現場と連携して成果を出すことが，プログラムへの関心や支援につながるのではないか。

(12) 情報発信（広報，ウェブサイト，シンポジウム，セミナー等）は十分に行われていますか。

評価	5 特に優れている （5 点）	4 やや優れている （4 点）	3 普通 （3 点）	2 やや劣っている （2 点）	1 劣っている （1 点）	合計 （35 点満点）	平均 評価点 （5 点満点）
件数	2	4	1	0	0	7	4.1
得点	10	16	3	0	0	29	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	学内学部生からの進学者増が望まれる。
B	特設ウェブサイト開設，説明会やチラシ配布など広報活動を強化し，定員充足など成果に繋げている点が評価できる。
C	定員充足は，その成果の一つであると思う。
D	広報活動の強化が進められている一方で，プログラムの認知度向上や学生確保という観点からは，さらなる発信強化の余地がある。今後は修了生の活躍事例や研究成果，社会実装事例を積極的に発信することで，プログラムの魅力がより広く伝わることを望む。
E	大学ホームページを中心に情報が発信されている。受験希望者増に向けて発信してほしい。
F	ホームページや専用サイト，各種セミナー等による情報発信の強化が進められている。今後はプログラム修了生の活躍事例や研究成果などを積極的に発信し，学生募集や社会的認知度向上につなげていただきたい。
G	あまり周知されていないと思われる。積極的な広報が望まれる。

【 総 合 】

(13) 教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの活動状況について，総合的にどのように評価できますか。

評価	5 特に優れている （5 点）	4 やや優れている （4 点）	3 普通 （3 点）	2 やや劣っている （2 点）	1 劣っている （1 点）	合計 （35 点満点）	平均 評価点 （5 点満点）
件数	5	2	0	0	0	7	4.7
得点	25	8	0	0	0	33	

学外外部評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	中間評価や外部評価に対して十分検討され対策が各々されており，将来的には入学者増加につながる取り組みだと思う。デジタル技術を用いた未知の領域での新たな価値を創造できるイノベーション人材の養成へ向けて，産学官のさらなる連携が図れたらと思う。
B	教育基盤の設計と課題への対応を評価する。今後の産学連携や実社会で変革を主導する人材の輩出（見える化も含む）に期待している。
C	このプログラムの大きな特徴は，博士課程の設置にある。現段階での取組が，来年度以降の活動につながるよう期待している。
D	両プログラムは，人材像の明確化や教育内容の体系化，学際連携の強化など着実な進展が見られる。学生確保や情報発信の改善も認められる。今後は教育成果の可視化を進めることで，さらなる発展が期待される。
E	体制，教育内容は評価できる。
F	社会的ニーズを捉えた先進的な取組であり，教育 DX 及び社会課題解決を担う人材育成の拠点として大きな可能性を有している。中間評価で指摘された課題についても改善が進んでおり，今後は入学者確保と修了生の成果の可視化を通じて，より一層の発展を期待したい。
G	一専門領域の新設にとどまらず，大学院組織の改編とつながっていることは評価できる。

(14) その他，お気づきの点がございましたら，自由にご入力ください（これからの教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムに求めること，等)。

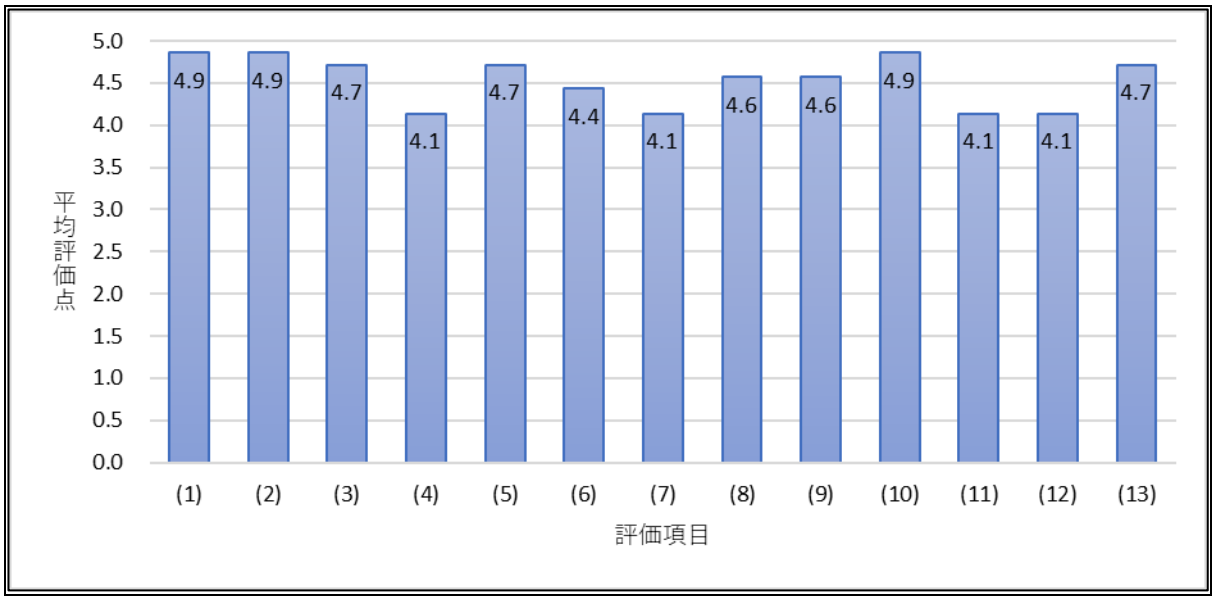
学外外部評価委員	ご意見・ご助言等
C	(13)にも書いたが，このプログラムの大きな特徴は，博士課程の設置にある。これからの展開に大いに期待する。
D	博士課程後期の開設・整備を契機とし，データサイエンス研究の拠点としての役割をさらに発揮することを期待したい。
E	学校の課題から出発して，学校経営の改善や授業改善に繋げられる人材育成を期待する。教育における自治体間の格差が生じることのない体制づくりに貢献できる人材の育成を期待する。
F	東広島市をはじめとする自治体では，教育 DX や生成 AI の活用，データに基づく教育施策の企画・評価などを担う高度専門人材への期待が高まっている。本プログラムには，教育現場や地域社会の課題解決に直結する研究と実践をさらに推進し，学校教育のみならず生涯学習や地域づくりの分野にも成果を還元していただきたい。また，現職教員や自治体職員が学びやすい仕組みを引き続き充実させ，地域における DX 推進人材育成の中核として発展することを期待する。
G	データサイエンスのダブルメジャーによる幅広い専門性を身に付けた，これからの社会に求められる人材を育成し続けることを通して社会によりよく認知・評価されることで，ここで学んでみたいと思われる特異な大学院プログラムとなっていくことを期待する。

Ⅴ. 評価結果を踏まえた今後の改善策

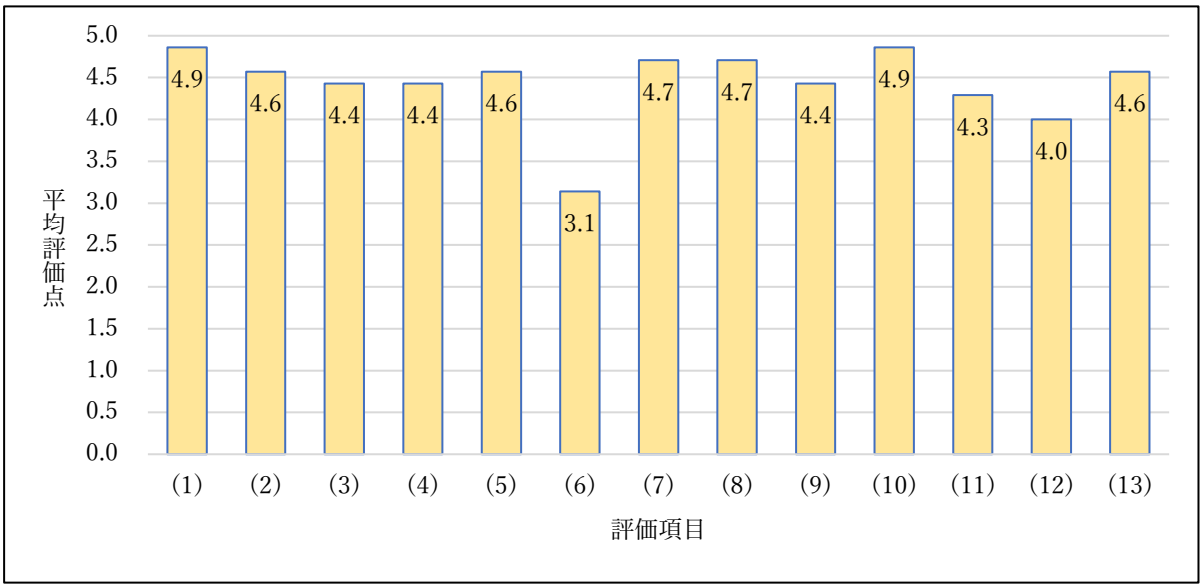
1. 平均評価点一覧

【　①学務関連　】		平均評価点（5 点満点）
(1)	教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの基本理念，輩出する人材像は，社会の要請を反映したものになっていますか。	4.9
(2)	教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムのカリキュラムは，必要な内容を含み，体系的な編成となっていますか。	4.9
(3)	学務関連活動を企画・運営する上で，学内の関連部局と連携し，必要な運営体制が適切に整備され，機能していますか。	4.7
(4)	教育リソース（ICT 環境，統計データ利活用等）は適切に整備されていますか。	4.1
【　②学生の受入れ　】		平均評価点（5 点満点）
(5)	学生の受入れについて，入学者受入方針に沿った，適切な体制により受入れが行われていますか。	4.7
(6)	入学定員や入学実績は適切ですか。	4.4
【　③学生生活・進路関連　】		平均評価点（5 点満点）
(7)	学生入学後の初期指導・オリエンテーションは充実していますか。	4.1
(8)	学生のニーズに応え得る学習・研究相談，キャリア相談の体制を整備し，助言，支援が行われていますか。	4.6
【　④DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業　】		平均評価点（5 点満点）
(9)	DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業の実施計画・継続性は，十分なものになっていますか。	4.6
(10)	DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業選定時において付された留意事項への対応は，適切に行われていますか。	4.9
【　⑤その他　】		平均評価点（5 点満点）
(11)	他教育機関・企業・自治体等との連携は活用されていますか。	4.1
(12)	情報発信（広報，ウェブサイト，シンポジウム，セミナー等）は十分に行われていますか。	4.1

【　総　合　】		平均評価点（5 点満点）
(13)	教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの活動状況について，総合的にどのように評価できますか。	4.7
(14)	その他，お気づきの点がございましたら，自由にご入力ください（これからの教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムに求めること，等）。	



（参考）昨年度の結果



2. 今後の改善策

(1) 全体的分析

評価対象 13 項目の全てにおいて平均評価点が 4.0 以上となり，そのうち 6 項目については 4.7 以上の高い評価を得たことから，教育データサイエンスプログラム及びソーシャルデータサイエンスプログラムは，開設 2 年目において着実な発展を遂げていると評価できる。特に，項目(1)「基本理念・輩出する人材像」，項目(2)「カリキュラム」，項目(10)「留意事項への対応」は平均評価点 4.9 であり，本プログラムが社会的要請を踏まえた人材育成を進めるとともに，中間評価等で指摘された課題に対して着実に改善を重ねていることが高く評価された。また，項目(13)「教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの活動状況について，総合的にどのように評価できますか」は平均評価点 4.7 であり，プログラム全体が「優れている」方向で評価されたと言える。

昨年度，最重要課題として位置付けた項目(6)「入学定員や入学実績」については，今年度は平均評価点 4.4 となり，両プログラムとも博士課程前期の入学定員を充足したことが評価された。これは，人材像や履修モデルの明確化，専用ウェブサイトの整備，説明会の実施等の継続的な広報活動の成果によるものと考えられる。今後は，定員の充足を維持するだけでなく，学部新卒者，社会人，現職教員，自治体職員等，多様な背景を有する学生を継続的に受け入れ，博士課程後期への進学も含めた人材育成サイクルの構築を進めていく。

一方で，評価委員からは，博士課程後期開設を契機とした研究拠点形成への期待，産学官連携や PBL・インターンシップの充実，修了生や研究成果の可視化，学生支援体制のさらなる充実等について多くの意見・助言が示された。来年度からは博士課程後期が開設されることから，博士課程前期・後期を一体的に運営し，データサイエンスを基盤として教育 DX・地域 DX・社会課題解決に貢献する高度専門人材の育成に取り組む。また，研究成果の社会実装と社会還元を推進するとともに，修了生の活躍や研究成果を積極的に発信することで，本プログラムの教育研究活動の価値を広く社会に示していく。

(2) 項目別分析

評価対象項目の中では，項目(4)「教育リソース（ICT 環境，統計データ利活用等）」，項目(7)「学生入学後の初期指導・オリエンテーション」，項目(11)「他教育機関・企業・自治体等との連携」，項目(12)「情報発信」が 4.1 であり，相対的に改善の余地が示された項目であった。

まず，項目(4)に関しては，評価委員から，演習や研究で利用可能な実データの充実や，教育課題・社会課題との関連を実感しやすいデータ活用環境の整備を期待する意見が示された。また，生成 AI や大規模データ解析の発展を踏まえ，今後も継続的な環境整備が必要であるとの指摘もあった。今後は，自治体，学校，企業等との連携を通じて活用可能な実データの拡充を図るとともに，教育研究活動において実社会と結び付いた分析・実践を推進し，より実践的な教育リソースの充実を図る。

次に，項目(7)に加え，関連する項目(8)「学習・研究相談，キャリア相談体制」に関して，学生からは研究指導体制や研究計画の進め方に関する説明の分かりやすさや，より双方向的な学習機会の充実を求める意見が見られた。大学院教育においては，オンライン環境の整備のみならず，教員と学生，あるいは学生同士の対話や交流を通じた学びの充実も重要である。今後は，入学時オリエンテーションにおける研究指導体制の説明をさらに充実させるとともに，中間報告会や研究交流会等を活用しながら，学生間及び教員との双方向的なコミュニケーションの機

会を拡充する。また，多様な背景を持つ学生のニーズを継続的に把握し，きめ細かな学習支援・研究支援を行う。

項目(11)「他教育機関・企業・自治体等との連携」については，多くの評価委員から，地域企業や自治体と連携した PBL（課題解決型学習），共同研究，インターンシップ等への期待が示された。さらに，高度デジタル人材や博士人材に対する産業界・自治体からの期待も大きく，教育 DX や地域 DX の推進を担う人材育成が求められている。今後は，産学官連携をさらに強化し，企業や自治体が抱える実課題を研究テーマとして取り上げる機会を拡大するとともに，博士課程後期学生も含めた共同研究，インターンシップ及び社会実装型 PBL の充実を図る。これにより，研究成果の社会還元と高度専門人材の育成を一体的に進めていく。

項目(12)「情報発信」については，昨年度と比較して改善が認められたものの，さらなる認知度向上に向けた取組が期待されている。評価委員からは，修了生の活躍事例，研究成果，社会実装事例等の積極的な発信が必要であるとの意見が示された。また，教育成果の可視化を進めることにより，志願者の確保や社会的評価の向上につながることも指摘されている。今後は，ホームページや SNS 等を活用した情報発信を継続するとともに，修了生の進路状況，研究成果，産学官連携の実績，地域貢献事例などを体系的に蓄積・公開し，本プログラムの教育研究成果を広く社会へ発信していく。

評価対象外の項目(14)では，多くの評価委員から博士課程後期の開設に対する期待が示された。教育 DX，生成 AI 活用，地域 DX，教育行政，学校経営改善等の分野において，本プログラムが教育研究の中核拠点として機能することが求められている。今後は，博士課程前期・後期を通じた体系的な研究指導体制を構築するとともに，教育学・社会科学とデータサイエンスを融合した特色ある研究を推進し，学校，自治体，企業及び地域社会との協働を通じて，研究成果の社会実装と社会還元を進める。また，修了生が研究者，教育実践者，行政職員，企業人等として活躍する姿を継続的に可視化し，本プログラムの価値と成果を社会に示していく。